

## R10b SCUBA 天体の分類は楕円銀河の進化の経路か?

小野寺 仁人 (東大理)、有本 信雄 (国立天文台)

近年、サブミリ波の観測装置 SCUBA によって多くの天体が検出されており、これらの可視光および近赤外線における対応天体の同定が精力的になされている。このような観測によって得られた可視光および近赤外線対応天体の性質にもとづいて、SCUBA 天体を 3 つのクラスへ分類することが提案されている (Ivison et al. 2000, Smail et al. 2002)。これらはそれぞれ、可視光および近赤外線に対応天体が検出されないクラス 0、近赤外線に対応天体が検出されているクラス 1、可視光および近赤外線に対応天体が検出されているクラス 2、である。このうちクラス 2 の銀河は可視光の観測を行なうことができるために詳しく調べられており、形成途中にある楕円銀河であると考えられているが、クラス 0 とクラス 1 の銀河はその詳しい性質がほとんどわかっていない。一方で、この分類は対応天体の有無のみによって決定されているため、クラス 0 およびクラス 1 の銀河とクラス 2 の銀河にどのような関係があるかは興味深い問題である。

そこで本講演では、大規模な星形成を行なっている形成初期の楕円銀河からの放射を、ダストの影響を考慮した輻射輸送モデルを用いて求め、その結果から、SCUBA 天体の分類が楕円銀河の進化とどのように関係しているのかを検討した結果を報告する。